全小学校にエアコン導入

一宮市予算案 一般会計が最大規模

一宮市は二十日、二〇一八年度当初予算案を発表した。一般会計は前年比2・9％増の千百三十二億二千万円で、全四十二小学校へのエアコン導入や旧産業体育館跡への複合施設整備などの大型事業が重なり、過去最大規模。県の権限が多く移譲される中核市への移行を目指すため、総務部に移行準備室を新設する費用も盛った。（植木創太）

【2018年度当初予算案の主な事業】

・中核市移行準備室の設置	32万円
・全42小学校への教室エアコン設置	24億2422万円
・旧産業体育館跡への複合施設整備	10億6487万円
・葉栗、萩原両公民館の改築整備	6億3412万円
・市を紹介するＶＲ動画の制作	251万円
・ゲーム機活用の介護予防スペース設置	2330万円
・学校支援アドバイザーの設置	157万円
・愛知教育大と連携した児童プログラミング教室	42万円
・旧林家住宅の耐震改修	6542万円
・尾西グリーンプラザ跡地整備の検討調査	1220万円

【2018年度一宮市当初予算案】

一般会計	1132億2000万円（2.9％増）
特別会計	692億2967万円（9.2％減）
企業会計	529億4710万円（4.5％増）
総　額	2353億9678万円（0.7％減）

＊かっこ内は17年度当初比。1万円未満切り捨て

市の今後十年間の基本指針「第七次総合計画」の初年度。中野市長が掲げる教育や官民連携、情報通信技術（ＩＣＴ）の推進に関する事業が目立つ。

最も金額を割いたエアコン整備は各教室や音楽室などが対象で、児童の学習環境や教職員の職場環境改善が狙い。一七年度には全中学校への配備を終えており、中野市長は「子どもが育つ環境の整備は大事。大きな一歩だ」と強調した。

昨年二月に浅井中の生徒が自殺した問題の再発防止策の一環として、退職した校長を「学校支援アドバイザー」として一人採用。各校へ派遣し、現職の校長らに学校運営のノウハウを指導してもらう。ＩＣＴを活用し、九月には愛知教育大の協力で小学五、六年生向けにプログラミング教室も催す。

観光誘客や地域活性化のため、木曽川周辺の利活用にも注力。光明寺公園（光明寺）や大野極楽寺公園（浅井町大野）には自転車道と遊歩道を整備し、河川敷に近い国の有形文化財「旧林家住宅」（起）の耐震改修も進める。尾西グリーンプラザ（冨田）の空地の民間利用を検討する調査費用も盛り込んだ。

歳入のうち、43・5％を占める市税は、給与所得の伸びによる個人市民税の増収を見込み、前年より二億円増の四百九十二億三千万円。市債は大規模事業が重なった影響で、前年比二十四億円増の百五億円を発行。財政調整基金から、過去最大の二十四億円を取り崩す。市によると、財政調整基金の残高は二十五億五千万円で減る一方。逆に市債残高は前年比二十億円増の千七十六億円に上り、ここ五年で百億円近く増え た。財務部局は各課に経費5％減の目標を掲げ精査したが、ほぼ実現できなかった。

予算案の用語

- **一般会計**……市民からの税金を主財源に福祉、教育、建設など主要な行政運営に使う予算。使い道は自由
- **特別会計**……介護保険など特定の目的のみで独立した予算
- **企業会計**……独立採算の病院、水道事業などの予算
- **自主財源**……税金や施設使用料など市町村が自ら獲得する財源
- **依存財源**……国、県からの配分金や地方債
- **市町村債**……財源不足を補うため複数年かけて返済する債務。市町村の借金
- **実質公債費比率**……地方債などの返済に充てた額が予算に占める割合。18％を超すと地方債発行に国の許可が必要となる
- **財政調整基金**……急な財源不足の際に取り崩せるよう積み立てておく貯金

解説 中核市化 財政負担が焦点

一宮市が尾張初の中核市を目指す。中野市長は、福祉や環境など日常生活に直結した権限が移譲されることで「質の高い行政サービスを目指す」と、その理由を説明する。

市によると、中核市になると、養護老人ホームや産廃施設の設置認可、児童相談センター業務の受け入れなど二千近い権限や事務を譲り受けることができる。

市は合併直後の二〇〇七年度に一度、一〇年の中核市移行を検討した。「交付税が縮小し、歳出増だけがもたらされる」との懸念もあり、合併自治体に交付税の優遇処置があるうちは延期するという結論を出した。

優遇処置は二〇年度で終了予定。市長は「一六、一七年度と予算編成し（中核市とし）やっていける財政的な見通しがたった」と説明する。

中核市に移行後も、移譲された行政サービスの経費負担は大半が交付税で賄われる。ただ、事務量や移譲内容を精査し、適切な人員配置などができなければ、財政負担が増す可能性は残る。（植木創太）

音楽ゲームで介護予防

一宮市に交流スペース新設

交流スペースに設置される「コグニバイク」＝大府市で（一宮市提供）

一宮市は二〇一八年度、同市木曽川町黒田の福祉施設「木曽川老人いこいの家」に、高齢者が音楽ゲーム機などを使って介護予防に取り組む交流スペースを新設する。故障で一六年十一月から利用停止になっていた施設の浴場を壊し、約四十五平方㍍の交流スペースにする。

設置するのは、音楽に合わせてボタンなどを押すゲーム機。市内の製造会社「コナミアミューズメント」に提供を受ける方向で協議している。ゲーム内容は高齢者向けに改変してもらう。

国立長寿医療研究センター（大府市）などが開発した運動しながらクイズに取り組む認知症予防機器「コグニバイク」も二台設置。専門家と連携し、効果の検証も視野に入れる。

中野正康市長は「認知症や介護予防への取り組みを最新の技術を活用して実験的に進めていきたい」と話した。市高年福祉課によると、ゲーム機を活用した介護予防事業は全国でも珍しい。ボイラー

（c）.中日新聞社　無断転載、複製、頒布は著作権法により禁止されています